

【vol.02】C メジャーペンタニックスケールを覚える ～その2～

それでは前回に引き続き、メジャーペンタの5つのポジションの内、残りの3つを覚えてしまいましょう。

前回やった2つのポジションを含めた、ペンタの5ポジションを覚えて、やっとギターを演奏するスタートラインに立てる、と言っても過言ではありません。(他にも各種コードなど、覚えることは色々ありますが)

ちなみに、“ペンタニックスケール”の略称なのですが、今後の解説では、“ペンタ”や“ペンタニック”と省略して書くことが多くなっていくでしょう。

今は“メジャーペンタニックスケール”を練習していますが、ペンタには、“マイナーペンタニックスケール”もありますよね。

それぞれの略称の意味としては、

- ・ペンタ or ペンタニック = ペンタニックスケール全般(メジャー、マイナー両方)
- ・メジャーペンタ = メジャーペンタニックスケール
- ・マイナーペンタ = マイナーペンタニックスケール

と、この様な感じで使い分けていきます。

例えば、今回のテキストのように、明らかにメジャーペンタの事しか話していない時に、“ペンタ”と略している場合、メジャーペンタニックスケールの事を言っている、と思ってください。

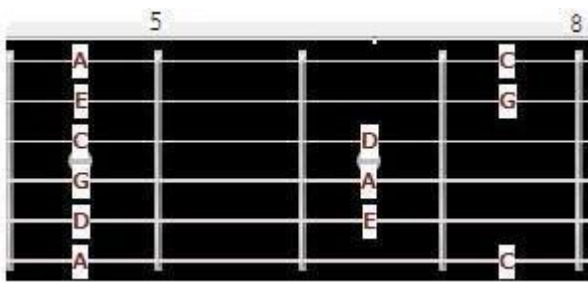
新しい音楽用語の意味については、奏法パートとは別に解説パートを作りますので、そちらを参考にしてくださいね。

では、いきましょう。

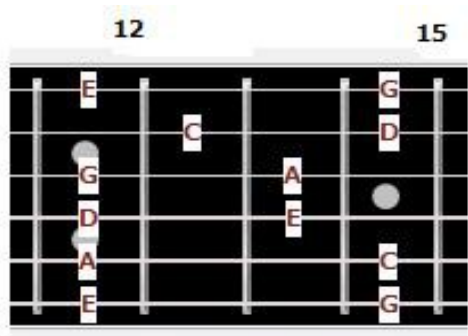
メジャーペンタニックスケール、ポジション3～5を覚える

まずは、前回までで覚えたポジションを見てみましょう。

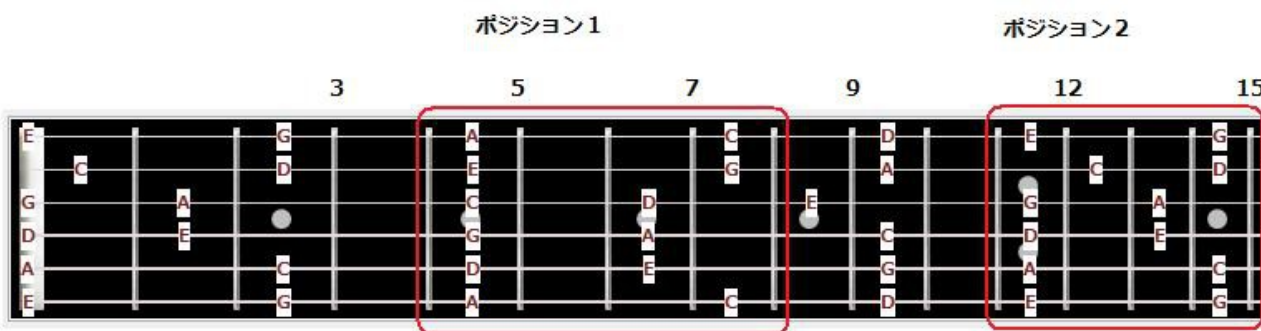
ポジション1



ポジション2



これらのCメジャーペンタトニックスケールの2つのポジションを、指板の全体で見ると、この位置になります。

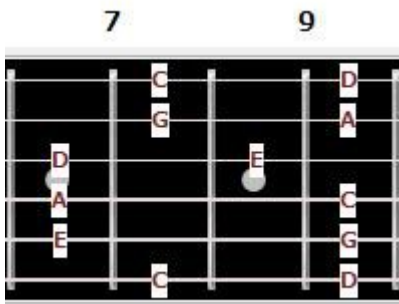


そして今回覚える残りの部分はこの3つ。

ちゃんとC(ド)から始まって、C(ド)で終わっていることを意識してください。

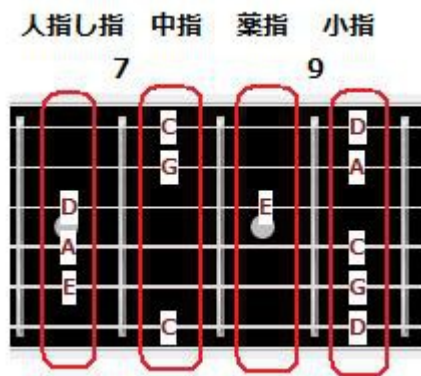
続けて残りの2つのポジションも覚えてしまいましょう。

図、ポジション 4

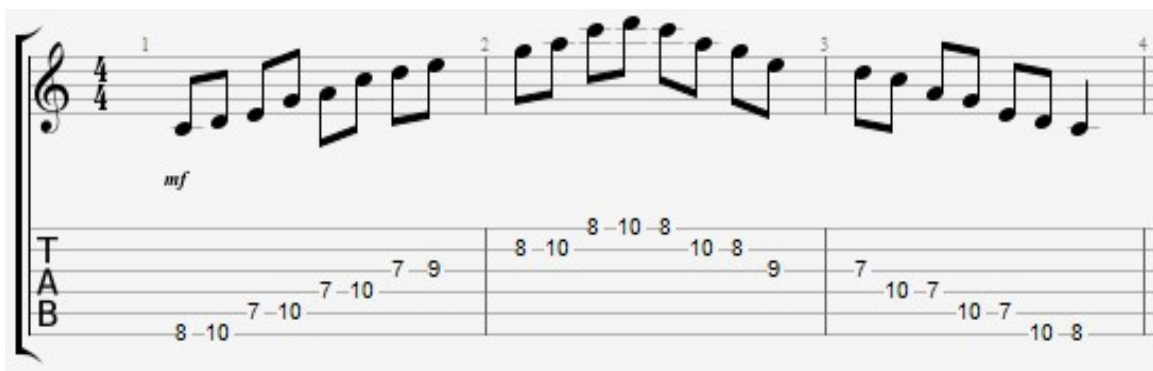


もうすでに予想していると思いますが、指使いはこうなりますね。

図、ポジション 4、指使い



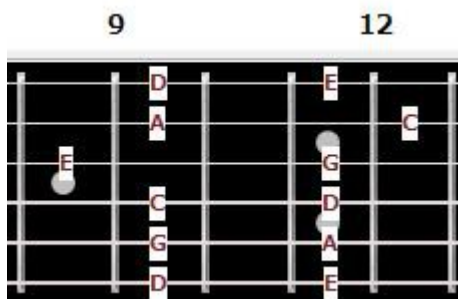
ポジション 4、練習譜例



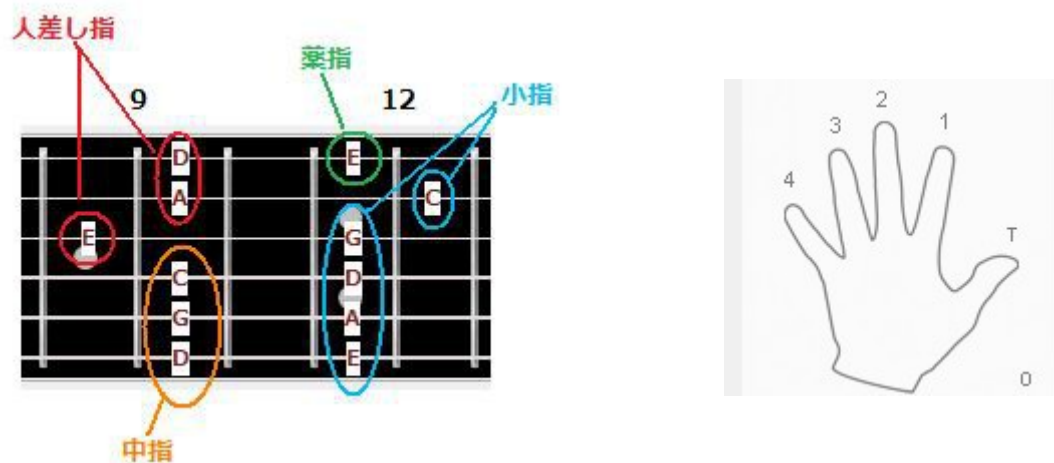
このポジションも、スタートと終わりの音を確認しておいてください。

さて、次のポジション5なのですが、ここは全体が5フレットの範囲になるので、指使いをちょっと広げます。

図、ポジション5



図、ポジション5、指使い

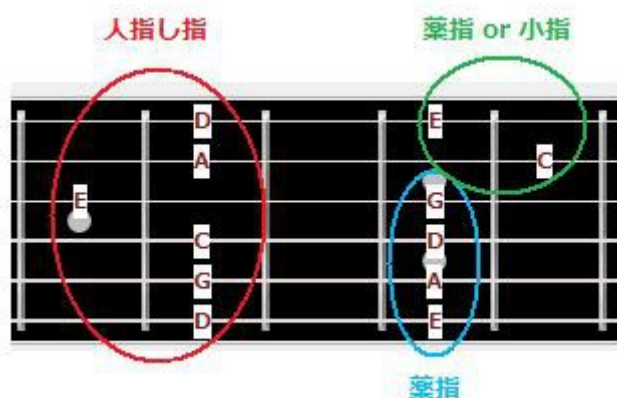


上の図だけでは少しわかりにくいかも知れないので、譜例の方にも指使いを番号で書いておきますね。

ポジション5、練習譜例

このポジションに関してなのですが、普通にペンタとしてフレーズを弾く時には、上の様な指使いをすることはあまり無いかと思います。

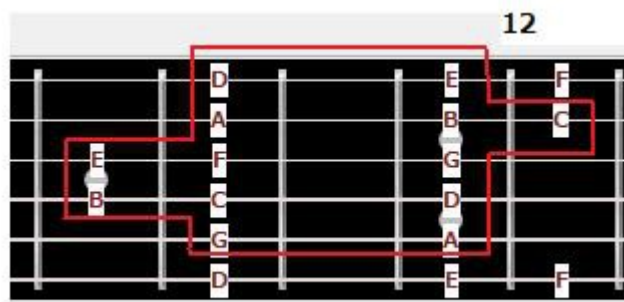
人にもよりますが、現実的にはこんな感じでしょう。



おそらく、ペンタとしてはこの指使いの方が弾きやすいと思うので、こちらを練習しておいてください。

それでは何故、先ほどの様な指使いを紹介したのかというと、今後、5弦ルートのミクソリディアンスケールというスケールを覚える時に、あの指の割り振りがベースになるから、です。

※5弦ルートのGミクソリディアンスケールの一部



細かい話は今後やっていきますが、このミクソリディアンのポジションを弾く時には、基本的には、1つ目の指使いの様な形で弾く事になるでしょう。

最初は戸惑うかも知れませんが、続けていけば、手がスケールポジションの“感じ”を覚えていきますので、今の内にどちらもやっておく事をお勧めします。

さて、ここまでの、メジャーペンタトニックスケールを覚える作業は終わりです。

個人的な経験から言っても、『覚える為だけの作業』は短期間で一気にやってしまった方が効率が良いです。

前は「じっくりやっていきましょう」とも言いましたが、それでも、ポジション5つ程度ならば、1週間～10日以内くらいには、図を見なくても弾けるようになっていたところですよ。

長くダラダラやっていると、覚えられないし、時間が経ったら忘れるし、で、良いことはありません。

サッとポジションだけは覚えてしまって、後はフレーズを適当に作ってみたり、曲の中で使っていれば、いつの間にか身体に染み付いていますから。

と、言う事で、さっそく次回から、実際のフレーズを弾いてみて、「どのようにスケールが使われているのか？」と言う内容に入っていきますよ。

これから学んでいく実際のフレーズでは、今までやってきた練習譜例の指使いを使わない事も多々あります。

しかし、スケールのポジションを手覚えこませる、という点では、指使いを決めたほうがはるかに習得効率が良くなります。

基本的には、普段の練習の際は指定の指使いで練習することをお勧めします。

その後(覚えた後)は、自分の弾きやすいように、指使いを調整しても構いませんので。

人それぞれ手の大きさは違いますし、ジャンルによっても特有のフレーズがあり、そのフレーズが弾きやすい指使いがありますからね。

ですがやはり、何事も最初は『基本通り』が一番ですよ。

5つのポジションを、全てそらで弾けるようになったら、毎日のウォーミングアップなどで、一日一回でも弾き続けていると、

まず忘れることはありません。

では、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼

P.S.

ここで解説しているペントニックスケールのポジション番号は、基本的には演奏時の使用頻度に基づいて番号を振っています。

他の人との会話や、教則本などのテキストによっては、覚える順番などが違う場合がありますが、その時は適時、調整してください。

慣れてくれば、ペントのような音数の少ないスケールであれば、覚えた後は、徐々にパツと弾けるようになってきますので、番号などでポジションを分類する必要は特に無くなってきます。

このテキストでは、実用性と覚えやすさの為に、あえて付けていますが。

最終的には、それぞれのスケールで、自分にとって使いやすい形を探っていきましょう。